

# 令和4年度 研究推進計画

令和4年4月19日  
推進部・研究担当（林）

## 1 本校で育てたい資質・能力

	生きて働く「知識・技能」の習得	未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成	学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養
資質能力	教科・領域で知識や技能を習得する力	表現する力	学びを生かし、主体的にやりきる力
中学校区	課題発見力	他と関わる力	自ら行動する力
今年度	<u>関連付けて考える力</u>	<u>伝わるように表現する力</u>	<u>主体的にやりきる力</u>
の説明 資質・能力	教科・領域で学習や生活に生かすことができる新しい知識・技能を習得する力	場面や相手に応じた表現方法で思いや考えを表現する力	学んだことを生かし、目標に向かってあきらめず最後まで主体的にやりきる力
	教科・領域で得た知識・技能が、他の教科・領域や生活の中での事象と関連付いていることに気付くことができる力	場面や相手に応じた表現方法を的確に選択し、自分の思いや考えを自分らしく表現したり、友達の表現を受け入れたりする力。	得た知識や技能を生かし、自分で決めた目標に向かってあきらめないで最後まで主体的にやりきる力。
低学年	教科・領域で得た知識・技能を実際に五感を使って <u>試しながら</u> 体得することができる。	<u>相手や場面に応じ、自分の思いや考えを分かりやすく伝えたり、友達の意見を最後まで聞いたり</u> することができる。	<u>教科・領域で得た知識・技能を生かして課題に取り組み、最後まであきらめないで主体的にやりきる</u> ことができる。
中学年	教科・領域で得た知識・技能を実際に五感を使って <u>試したり、ノートにまとめたりしながら</u> 深めることができる。	<u>相手や目的に応じて、根拠や事例を挙げながら、自分の考えたことや判断したことを適切に表現したり、友達の意見を受容しながら聞いたり</u> することができる。	<u>教科・領域で得た知識・技能の中の関連付けられる部分を生かして課題に取り組み、自分で立てた目標が達成できるように、あきらめないで最後まで主体的にやりきる</u> ことができる。
高学年	教科・領域で得た知識・技能を <u>図や表・グラフや記号を使ってノートに表したり、ペアやグループで意見交流をしたりしながら</u> 深めることができる。	<u>目的や意図に応じて、論理の展開や表現の仕方などを工夫しながら、自分の考えたことや判断したことを効果的に表現したり、他者の意見を受容しながら自分の意見を述べたり</u> することができる。	<u>教科・領域で得た知識・技能の中の関連付けられる部分を生かしてグループ等で協働し学習を深めながら、工夫して課題に取り組み、自ら立てた目標達成のための手段を選択して、あきらめないで最後まで主体的にやりきる</u> ことができる。

## 2 研究主題

**主体的に学び続ける児童の育成**  
～新たな課題発見と建設的な話合いのスパイラルで～

### 3 研究主題設定の理由

本校は昨年度、「主体的・対話的で深い学びの創造～建設的な話し合いを通して高まり合う児童をめざして～」として、研究推進教科・領域を生活科・総合的な学習の時間とし、研究をスタートさせた。しかし、COVID-19の世界的大流行が続き、学習活動が制限されたため、児童が頭を突き合わせてじっくり意見を交わすことは難しかった。そのような状況下、感染症拡大を予防しながら、全体研修及びブロック研修を行い、「建設的な話し合い」を行うことで本校の目指す資質能力を高めるために「お互いに高まり合うためのペアトーク・グループトーク」カードで単に話型を示すだけでなく、何のために建設的な話し合いをするのか、どのような心構えで話し合うと効果が上がるのかなど、その大切さを説いてきた。その結果、ペアトークやグループトークが単なる自分の考えの報告の時間ではなく、疑問点を出し合い、それを解決していったり、自分の意見を再構築させたりする時間になってきた学年もあった。

また、めあてをはっきり持つだけでなく、授業の始めにルーブリックを共有することで、その時間に何を学んでいくか、どんな力をつけていくかを見通すことができきており、より主体的な学習になっている。

昨今の社会状況に鑑みると、コロナ禍前のように話し合い活動を活発に行うことはできないが、しっかり感染症拡大防止対策を実施しながら、昨年度までに培ってきた資質・能力を高めることができるよう、本年度の研究も「建設的な話し合い」を手段として取り入れたいと考えた。また、児童の学習の様子から、自ら発見した課題について建設的な話し合いによって学びを深めることはもちろん、その話し合いの中から新たな課題を発見し、さらに学びを広げたり深めたりしていくことができていたことから、それを繰り返すことが重要なのではないかと考えた。

以上のことから、本年度の研究課題を「主体的に学び続ける児童の育成～新たな課題発見と建設的な話し合いのスパイラルで～」と設定し、生活科・総合的な学習の時間の授業を中心として取り組んでいく。また、本校で身に付けさせたい資質・能力を中学校区の資質・能力と関連付けて、「関連付けて考える力」「伝わるように表現する力」「主体的にやりきる力」の3つに設定し、生活科・総合的な学習の時間の授業を中心に、より一層の充実を図りたい。そして、授業による研究と並行してミニ研修も内容をさらに充実させ、基礎基本の定着にも取り組みたいと考えている。

### 4 研究仮説

自ら発見した課題を解決するために、様々な方法を選択して情報を収集したり、思考ツールを利用しながらグループで建設的な話し合いを行ったりすれば、さらに新しい課題を見つけることができ、そのスパイラルで、「本質的な課題」に向かって主体的に学び続ける児童を育成することができるであろう。

### 5 研究内容と方法

#### (1) 手立ての工夫

##### 児童自ら課題を発見する習慣の確立

- 生活科・総合的な学習の時間だけでなく、各教科・領域で課題（めあて）を発見させる方法についての研修を行う。

##### 建設的な話し合いの方法の習得

- 建設的な話し合いにするための方法とその効果や心構えを提示する。
- すべての教科・領域で建設的な話し合いに取り組む。
- 建設的な話し合いにするための指導方法の研修をする。
- 学級活動での話し合いをさらに充実させる。

##### 学力向上のための基礎力養成の工夫

- 学力向上のための工夫をする。  
朝のドリルタイム、東っ子プリント（復習プリント）、CRTテストの実施

#### (2) 研究推進教科・領域

- 生活科・総合的な学習の時間
  - ・建設的な話し合いによる協働的な学びと新たな課題発見とのスパイラル
  - ・集団思考場面等での思考ツールの活用
  - ・だれ一人取り残さない持続可能な社会を目指し、単元のプロジェットのSDGsとの関連付け
  - ・探究的な学習を支える話し合い活動が、建設的なものになるように、視点を明確にしてからの話し合い。

(3) 「主体的に学び続ける児童の育成」に向けて

- 育てたい資質能力「関連付けて考える力」「伝わるように表現する力」「主体的にやりきる力」を見通した単元構想図の作成
- 自ら課題を見出し、適切に解決方法を決めて実践・振り返りを行う学習過程の重視
- 建設的に話し合いを進めることができるように、相手の意見を受け入れてから、助けになる具体的な意見を述べる手法の獲得
- プロジェクト型学習を「本質的な問い」を解決すべく探究し続けるための手段として用い、持続可能な社会を目指してSDGsと関連付ける
- 各教科・領域等をつなぐカリキュラム・マネジメントの推進

(4) 校内研修の運営

- 研究推進委員会を中心に理論研修・協議会を実施する。
- 一人1回以上、単元構想図及び学習指導案を作成し、授業提案を行う。
- 低・中・高学年のブロックで学習指導案の作成、事前または事後授業、授業提案等の授業研究を運営する。特別支援学級及び専科はそれぞれ授業提案を行う。

6 研究の指標

指標	達成目標	実施時期
標準学力調査（CRT）国語・算数	前年度平均以上（1学年は全国平均以上）	12月
資質・能力に関する児童アンケート 「相手の意見を受け入れてから、助けになる具体的な意見を述べています。」	肯定的評価の割合が70%以上	6月・12月
授業評価シート	3以上	授業研究実施後

7 校内研修日程

	月日	内容	担当・授業者	講師等
	4/	研究推進計画案について	研究主任	
	4月下旬	総合的な学習の授業づくりについて理論研修	研究主任	
全	5/（ ）	全体研・授業 たんぼぼ		
全	6/14（火）	全体研・授業 総合的な学習の時間		比治山大学 現代文化学部 子ども発達教育学科 上之園公子教授
	7/27（水）	指導案の作成等について		
全	9/28（ ）	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
全	10/19（水）	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		中学校区公開研究会
全	1/18（水）	全体研・授業 生活科・総合的な学習の時間		上之園公子教授
ブロック	5/（ ）	ブロック研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
ブロック	9/（ ）	ブロック研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
ブロック	10/（ ）	ブロック研・授業 生活科・総合的な学習の時間		
ブロック	/（ ）	ブロック研・授業 専科（ ）		
ブロック	/（ ）	ブロック研・授業 専科（ ）		

	内容	時期		内容	時期
1-1			5-1		
1-2			5-2		
2-1			6-1		
2-2			6-2		
2-3			たんぽぽ1		
3-1			たんぽぽ2		
3-2			たんぽぽ3		
4-1			音楽・家庭科		
4-2			理科		

- ※ 一人1回授業を提案する。
- ※ 全体研の授業は、低・中・高学年で1つずつ行う。全体研を行わない学年は、ブロック研を行う。
- ※ 専科は、プロジェクト型学習で話し合い活動を取り入れた授業を計画し、授業提案を行う。専科が授業を行う当該学年のブロックで授業参観を行う。
- ※ 特別支援学級については、児童の実態把握と理解を深めるための児童観察を早い時期に行う。

## 8 その他

### ○ 講師依頼

比治山大学 現代文化学部 子ども発達教育学科 上之園公子教授